

## あとがき

今回は「絵画と彫刻の新世代」展——radical orthodoxy——と題し、越前谷嘉高(1961-)、諏訪直樹(1954-)、戸谷成雄(1947-)の3人の作家の近作を展示することとなった。戸谷さんと諏訪さんは関係者の間ではすでに名の知られた作家であるが、越前谷さんは全くの新人で画廊では初めての発表である。

この展覧会の名称については企画された峯村敏明さんにお考えいただき、いろいろ論議した結果、標題のとおりに落着いた。私はradicalという語は急進的な、過激な、という意味しか知らないかったが、辞書を引くと第一項に根本の、基礎の、という訳が出てくるのである。つまり、ここでradicalとしたのは上記の2つの意味が含まれているのである。ある時代に新しく生まれてくるものは急進的にみえるのである。「新世代」はつねにベーシックで急進的——つまりラディカルなものである筈だ。それが正統なものとなるかどうかは歴史の審判に待たねばならない。ただ、ラディカルでないものが正統なものになる筈がないと私は考える。

当画廊も創設以来7年を数えることとなったが、かねがねわが国の現代美術の若い作家を紹介して行きたい。このことは現代美術を取り扱う画廊の重要な仕事のひとつであると考えていた。第一回目として今回は峯村敏明さんに作家を選んでいただき、ようやく「新世代」展の幕開きとなった。今後は原則として毎年1回、新しい作家を2-3名ずつ紹介して参りたいと考えている。ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

1985年6月10日

佐谷画廊

佐谷和彦